

プロジェクト名称	<p>ちゃりんこつちうら(重点整備計画)</p>
現状(問題点,背景)	<p>土浦市はりりんロードと霞ヶ浦自転車道という2路線の自転車道を有し、スーパーフラットの走りやすい地域として有名である。また県が計画する水郷筑波サイクリングコース(霞ヶ浦一周自転車専用道整備とりんりんロードとの一体的な整備)においても自転車道どうしの接続、沿線における数少ない市街地、常磐線との接続等という意味において要衝となることは確実である。一方で現状では自転車道どうしの接続の悪さや「素通り地点」となる可能性など問題も持ち合わせている。</p> <p>現状における市内の自転車政策については自転車道整備やモール 505 にて商工会が開設した店舗である「まちなかほっと One」が提供するレンタサイクルやロッカー、市の刊行する自転車道パンフレットなどが挙げられるが、これらを土台にしより拡充させてゆく。</p>
目的・趣旨	<p>自転車の利用を通じて市内外の多くの人々に土浦市のもつ良さを知ってもらうとともに、その魅力について利用者に好きになってもらうことを狙いとする。副次的なものとしては非自動車交通による CO2 削減や健康増進効果も期待される。なお、政策を進めてゆく中で交通の安全性も確保しながらより一層の自転車活用を推進するものとする。</p> <p>また、これら自転車道の整備は首都圏のみならずその規模と質から日本中からサイクリング愛好家を集められる可能性を有している。2020 年にオリンピックを控えた日本において大規模かつ本格的にサイクリングに取り組むことのできる環境として観光の役割を担うことができることが予想される。</p>
内容	<p>以下の 3 項目を政策の柱として掲げる。</p> <p>○水郷筑波サイクリングコースとの連携</p> <p>サイクリングコースの枠組みの中で周辺市町村との連携を図る。自転車道を案内するために全市町村で統一の形式による看板を設置。またポタリングコース(後述)を霞ヶ浦周辺の随所に設け、「大規模自転車道とポタリングコース」の枠組みを霞ヶ浦周辺の全域にひろく整備してゆくものとする。</p> <p>観光の面では、現在土浦港から潮来に向けて就航しているフェリーに自転車を搭乗させることで同区間の霞ヶ浦遊覧と潮来から土浦までの霞ヶ浦半周のサイクリングを行うプランを設定。霞ヶ浦におけるサイクリングをより手軽にする機会を提供するとともにスポーツと観光を一体的に提供できるようにする。</p> <p>○ポタリングコースの整備</p> <p>新治地区には小野小町伝承が存在し、小町の墓などの史跡や小町の館など公的施設、筑波山南麓と農村との風光明媚な風景などの観光資源が豊富である。またりんりんロードからのアクセスも良い。よってりんりんロード旧藤沢駅を起点とするポタリング(自転車による散歩)コースを策定することで自転車を使ったこれらの資源をめぐる歴史と自然を全身によって体験する「走る」以外の自転車の楽しみ方を提示するとともに地域の魅力発信を図る。この新治をモデル地区として随時市内他地域へも整備を拡大してゆくこととする。また前述のとおり他市町村においてもポタリングコースの設定を依頼する。</p> <p>○サイクルステーションの整備</p> <p>現状ではモール 505 において商工会が「まちなかほっと One」という店舗を開設し、観光情報の提供や</p>

	<p>空気入れ・ロッカーの提供などを行っている。この取り組みを下地とし自転車利用者のためのサイクルステーション(ロッカールーム、シャワー、レンタサイクル、レンタルウェア、駐輪場などを完備したサイクリングの拠点)へと発展させてゆくことで利便度向上と利用者増を図る。</p> <p>○霞ヶ浦満喫ルートの提供</p> <p>現在ラクスマリーナにより季節限定ではあるが土浦から潮来に向けたフェリーが就航している。このフェリーの往路(土浦-潮来間)は自転車をフェリーに乗せ霞ヶ浦を遊覧、のち潮来から霞ヶ浦自転車道を利用してサイクリングを楽しむというルートを設定し、霞ヶ浦をまんべんなく楽しむことのできるコースを設定する。</p>
将来目標	<p>日本一気持ちよく走ることのできる自転車道環境の整備と、自転車道を通じた地域の魅力発信を行うことを通して、土浦やその周辺における観光の促進と、土浦ブランドの確立を図る。</p>
期間	<p>各種整備 平成 26 年～平成 28 年</p> <p>サイクルステーション開設 平成 30 年～(土浦駅西口再開発完了時点)</p>
場所	<p>新治地区(ポタリング)、土浦駅西口地区(サイクルステーション)、水郷筑波自転車道全域</p>
対象者	<p>市周辺住民、観光客(サイクリング愛好家など)</p>
運営主体	<p>土浦市 + 茨城県(水郷筑波サイクリングコースとの連携)</p>
運営方法	<p>土浦市による整備を行う。その際、茨城県や他市町村との連携も図る。またサイクルステーションにおいては皇居ランステーション(皇居周辺において皇居ランナーを総合的にサポートする民間施設)をモデルとし、民間の事業者を募る。</p>
イニシャルコスト	<p>看板設置費、コース選定経費/サイクルステーション設置費用</p>
資金源	<p>市予算/民間負担(一部を市が助成)</p>
ランニングコスト	<p>サイクルステーション運営費</p>
資金源	<p>市予算よりテナント料分の補助</p>
今後の課題	<p>新治小町の里以外へのポタリングコース策定の展開。新治をモデル地区とし、随時市内他地区へも展開させてゆく。</p> <p>概念図参照</p>